宝塚市立男女共同参画センター・エル　　令和元年（2019 年）度

☆市民力開発講座☆

私たちの‘エンディング’を考える

～ 住み慣れたまちで、人と関わりを持っていつまでも自分らしく生きる ～

2025 年 ＝ 団塊の世代が 75 歳を超えて後期高齢者になる「超高齢社会」が、目前に近づいてきました。私たちが、認知症になっても、シングルであっても、住み慣れたまち 宝塚 で、終末期を安心して自分らしく暮らし続けるために出来ることは何か。 私たちの‘エンディング’を一緒に考えてみませんか。

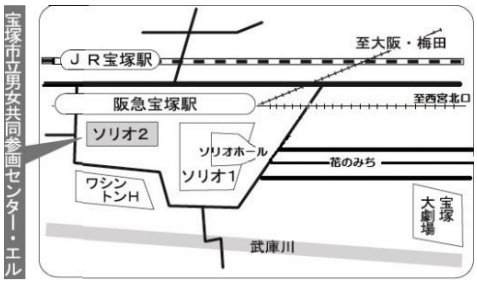
①11 月 14 日（木） 10:00～12:00	オリエンテーション **私たちの‘エンディング’を考える とは？** ～ 5 年目を迎えて ～ ☆ 上村くにこ さん（西宮想像文化フォーラム 代表） ☆ 田上 時子 さん （NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西理事長）
②11 月 21 日（木） 10:00～12:00	**ひとりで生きる、みんなで活きる** ～「友だち近居」11 年の現実は ～ ☆ 川名 紀美 さん （フリージャーナリスト）
③11 月 28 日（木） 10:00～13:00	**ドキュメンタリー映画上映・トーク ～ 信友直子監督をお招きして ～** **ぼけますから、よろしくお願いします。**（2018 年／日本／カラー）
④12 月 5 日（木） 10:00～12:00	**住み慣れたまちで過ごすということ** ～認知症になっても、終末期でも～ ☆ 宝塚認知症オレンジロバネットワーク ☆ NPO 法人ホームホスピス宝塚つ･む･ぐの家
⑤12 月 12 日（木） 10:00～12:00	**［生きること、老いること、病むこと、死ぬこと］を考える** ～ まとめ 私たちの‘エンディング’を考える ～ ☆ 上村くにこ さん　☆ 田上 時子 さん

◆ 日　時 ： 11／14～12／12 の木曜日 ［5 回講座］　※ ③のみ、10 時～13 時
◇ 対　象 ： テーマに関心のある方 50 人 ＜ 先着順 ＞　（＊全回出席できる方優先）
◆ 保　育 ： 10 人（1歳～就学前まで） 無 料　要予約
◇ 申込み ： 10／3(木)9:00～ 電話または窓口、センターHPで受付
宝塚市立男女共同参画センター へ

参加費無料

主　催　　宝塚市立男女共同参画センター・エル
宝塚市指定管理者
NPO 法人　女性と子どものエンパワメント関西
宝塚市栄町 2－1－2「ソリオ2」4 階
電話：0797-86-4006　FAX：0797-83-2424
https://www.takarazuka-ell.jp/

（駐車場はありませんので、公共交通機関でお越しください）



※申込みにあたってお預かりする個人情報は本講座以外の目的で使用することはありません。

私たちの ‘エンディング’ を考える［講師紹介］

上村 くにこ さん（西宮想像文化フォーラム 代表、甲南大学名誉教授）

専門はフランス文学、神話、ジェンダー論。著書に「恋愛達人の世界史」「失恋という幸福」「白鳥のシンボリズム」ほか。これから自分ができる唯一のことは「自分が老いてゆくこと、死んでゆくことを深く観察すること」と、定年退職を機に「死生学」を志す。2013 年から、これまでにない新しい高齢者文化をを創りだそうと NPO を立ち上げ、活動を続けている。

田上 時子 さん（NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西 理事長）

早稲田大学卒業後、カナダ留学。1988 年 9 月帰国。女性と子どものエンパワメントに努めている。2011 年文部科学大臣より「社会教育功労賞」受賞。JICA 人身取引被害者支援･自立支援促進プロジェクト短期専門家。2015～2018 年「人身取引に関する日･タイ合同ワークショップ」を企画運営。両親の介護･看取りを通して、人生のエンディングの有り方を考えている。

川名 紀美 さん（フリージャーナリスト）

1970 年朝日新聞社入社。大阪本社学芸部、社会部、学芸部次長を経て 1995 年から論説委員。社会福祉全般、高齢者や子ども、女性の問題に関する分野の社説を担当。2009 年 5 月朝日新聞社退社。著書に『井村雅代・不屈の魂』『アルビノを生きる』『再婚』『親になれないールポ・子ども虐待』など。日本福祉大学客員教授。宝塚市教育委員。

ドキュメンタリー映画

ぼけますから、よろしくお願いします。（2018 年／日本／カラー／日本語字幕）

広島県呉市。そこで生まれ育った『私』（＝信友直子監督）は、ドキュメンタリー番組を制作するテレビディレクター。約 40 年、東京で暮らしている。結婚もせず仕事ひとすじの娘を、両親は遠くから静かに見守っている。「私」が 45 歳の時、乳がんが見つかる。母のユーモアたっぷりの愛情で人生の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、カメラを回しているうちに、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めるー。

©「ぼけますから、よろしくお願いします。」制作･配給委員会

信友 直子 さん（映画監督）

1961 年広島県呉市生まれ。1984 年東京大学文学部卒業。1986 年から映像制作に携わり、フジテレビ「NONFIX」や「ザ･ノンフィクション」で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。「NONFIX 青山世多加」で放送文化基金賞奨励賞、「ザ･フィクション おっぱいと東京タワー ～私の乳がん日記」でニューヨークフェスティバル銀賞･ギャラクシー賞奨励賞を受賞。他に、北朝鮮拉致問題･ひきこもり･若年認知症･ネットカフェ難民などの社会的なテーマから、アキバ系や草食男子などの生態という現代社会の一面を切り取ってきた。本作「ぼけますから、よろしくお願いします。」が劇場公開映画初監督作品。

宝塚認知症オレンジロバネットワーク

認知症に対する偏見がない、誰もが安心して暮らせるあたたかいまちを目指して活動しているグループ。住民と専門職（介護、医療などを仕事として従事する人）及び認知症の方とその家族が一緒に学び、考え、つながりながら地域の課題を見つけ、その解決に取り組んでいる。

NPO 法人ホームホスピス 宝塚つ・む・ぐの家

宝塚市内初のホームホスピス『宝塚つ・む・ぐの家』は、病や障碍を持っていても住み慣れた地域で最期まで自分らしく生きたいと願う人とその家族に対して、お互いが寄り添い支え合って暮らす為の支援を行う住まいで、2018 年 11 月オープン。看護師、介護福祉士、栄養士などの専門職のスタッフが温かく寄り添い、見守っていく体制を敷いている。